

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 文教育学部	3
2. 理学部	6
3. 生活科学部	9
4. 人間文化創成科学研究科	12

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

お茶の水女子大学

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
文教育学部	【4】	特筆すべき高い質にある	【4】	特筆すべき高い質にある
理学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
生活科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人間文化創成科学研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【3】	高い質にある



## 1. 文教育学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 5 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 特筆すべき高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

「グローバル女性リーダーの育成」というミッションを掲げ、教育の国際化及びキャンパスの国際化を推進している。取組の一つとして、米国の交流協定校とオンラインツールを活用した遠隔授業を導入し、直近の2年間で300名以上の学生が交流している。また、大学の第3期中期計画において設定した「グローバル人材比率」が、平成28年度の32.2%から令和元年度の56.4%へと上昇している。

#### 〔優れた点〕

- 文教育学部の専任教員の女性比率は平成28年度～令和元年度でいずれも50%前後となっており、学系別（総合文系、課程区分：学士）の平均値：23.2%を大きく超え、国立大学の中で一位となっている。こうした環境は、文教育学部の女性学生にとって、学問を学ぶ上のみでなく、ライフスタイルやキャリアパスの身近なロールモデルを得る上でも適したものになっている。
- 新フンボルト入試では、第一次選考の一環をなすプレゼミナールを開催しており、文系では共通するテーマに基づき、各分野で受験生の知的好奇心・探究心を喚起するセミナーを開講している。また、第二次選考として、文系では受験生に文献や資料を活用してレポートを作成させ、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力などを評価する「図書館入試」を実施している。平成28年度の導入以降、毎年多くのプレゼミナール参加者及び受験者を獲得しており、文教育学部においても、志願者数は第2期中期目標期間平均：23.8名から、平成28年度～令和元年度平均：94名へと大幅に増加している。
- お茶の水女子大学では、大学全体のミッションとしてグローバル女性リーダーの育成を掲げており、教育の国際化及びキャンパスの国際化を全学的に推進している。その成果のひとつとして、お茶の水女子大学の第3期中期計画【K31】において設定する「グローバル人材比率」について、文教育学部生は平成28年度：32.2%から令和元年度：56.4%へと上昇している。

#### 〔特色ある点〕

- 平成30年度より、心理学コースを生活科学部に移転し、文教育学部人間社会科学科に子ども学コース（プログラム）を新たに開設した。同コースでは、「子ども」を起点として、理論・実践・対話を通じて、人間・社会・文化の生

成過程と構造を探究し、子どもを取り巻く課題を考えながら、その背後にある社会や文化を考察しながら人間とは何かを実践的に学ぶことが可能である。新コース開設により、教育の現場に子ども学のスタンダードを活かすことで、大人と子どもの関係性に関する知見を社会へ発信していくための体制を整備することができた。

- 文教育学部開講科目において、お茶の水女子大学と大学間交流協定を結ぶヴァッサー大学（米国）とオンラインツールを活用した遠隔授業を導入しており、同事業を通じて、平成 30・令和元年度の2年間で 300 名以上の学生が交流を行っている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 特筆すべき高い質にある

#### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

平成 29 年 8 月に開催された第 30 回全日本高校・大学ダンスフェスティバルの大学創作コンクール部門において、芸術・表現行動学科舞踊教育学コースの 1～3 年生（21 名）の創作ダンス作品「女たちの狂詩曲」が、文部科学大臣賞を受賞している。

#### 〔優れた点〕

- 平成 29 年 8 月に開催された第 30 回全日本高校・大学ダンスフェスティバルの大学創作コンクール部門において、文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コースの 1～3 年生（21 名）の創作ダンス作品「女たちの狂詩曲」が、文部科学大臣賞を受賞している。また、同コースでは、令和元年度には国際的な舞踊集中研修である「Camping Asia 2019」の招聘校として選出されて学生が参加する等、国際的な教育活動も行っている。
- 文教育学部では、教育全般の満足度が 96%、コア（教養）教育では、文理融合リベラルアーツ 91%、専門教育では、講義 91%、演習実習実験 92%、卒業論文・研究 90%と高い満足度を得ており、また、大学教育によって獲得したものとしては、「課題探究」や「グローバル社会への適応力」が高い評価を示している。さらに、複数プログラム選択履修制度を有意義とする回答が 88%を占め、授業以外の教育サービス（13 項目）や学生支援サービス（8 項目中 7 項目）の満足度は、高い評価となっている。

## 2. 理学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 7 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 8 )



## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

専任教員に占める女性教員の割合（平成 28 年度から令和元年度の平均）は、理学系の平均値を超えた 26.9%となっている。また、高い意欲のある学生を選抜して個性と能力を伸ばすため、研究志向の実践力を育成するためのプログラムを導入し、学生が興味のある研究課題に沿って実際に研究を進め、当該学生が学会発表を行っている。

#### 〔優れた点〕

- 女性教員の比率が高く、専任教員に占める女性教員の割合（平成 28～令和元年度の 4 年間平均）は、学系別（理学系）の平均値：9.0%を大きく超え 26.9%となっており、女性固有のライフスタイルやキャリアパスに配慮した教員配置が行われている。これらのことから理学部は、確実な基礎力と高い専門性をもった女性の養成を実現しうる特徴を備えた教育体制となっていると言える。

#### 〔特色ある点〕

- 高い意欲のある学生を選抜して個性と能力を更に伸ばし、研究志向の実践力を育成するため、アドバンスド・プログラム、プレ卒業研究を平成 21 年度より導入している。本制度では、学生が興味のある研究課題に沿って実際に研究を体験し、学会発表を行っている。また、学部の後期では、学科の枠を超えた「卒業研究制度（卒研シフト）」を学生の希望に合わせて選択ができる制度を導入している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 毎年度、学会等学術団体・企業等からの受賞者を輩出している。令和元年度には、民間企業による「学生アイデアコンテスト 2019 ベビーカソン」において、情報科学科の学生3名が社長賞を受賞した。「学生アイデアコンテスト 2019 ベビーカソン」は、「赤ちゃんやママとその家族の毎日をもっと快適に楽しくするIoTを活用した未来のベビーカー」をテーマにアイデアを競うコンテストであった。

### 3. 生活科学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 10 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 11 )

**分析項目 I 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

### 〔特色ある点〕

○ 全学としては、教育全般の満足度（5段階評価における、「非常に満足」「やや満足」という肯定回答の比率）は92%、コア（教養）教育では、文理融合リベラルアーツ80%、基礎講義62%、専門教育では、講義89%、演習実習実験90%、卒業論文・研究88%ときわめて高い満足度を示している。お茶の水女子大学がミッションとして掲げるグローバル女性リーダー育成についての評価（賛成、どちらかといえば賛成の比率）は92%、女子大学の存在意義について肯定評価（大きい、どちらかといえば大きいの比率）86%であり、お茶の水女子大学の教育方針の理解が高い満足度につながっていると考えられる。また、家族の教育についての評価でも、肯定回答（とても評価、やや評価）の比率は73%であり、家族の理解や評価も高い。大学教育によって獲得したものとしては、「専門知識」「一般教養」について、「領域を超えた学際知識」「課題探究・問題解決」「自ら学習できる能力」が挙げられており、学生自身の主体的な関心と学習を重視するお茶の水女子大学の方針が学生の力となっている。さらに、教学比較 IR コモンズが設計した学生の「学修行動比較調査「ALCS（Academic Learning and Cultivation Survey）」システムを、平成28年度から令和元年度まで毎年1年生と3年生を対象に実施し、教育の達成状況や課題を客観的に見いだすとともに、他の参加大学の調査結果と比較・検討し、連携的な教育の内部質保証の仕組みを創り出している。

生活科学部では、教育全般の満足度が91%、コア（教養）教育では、文理融合リベラルアーツ74%、専門教育では、講義92%、演習実習実験93%、卒業論文・研究89%と高い満足度を得ており、また、大学教育によって獲得したものとしては、「課題探究」や「グローバル社会への適応力」が高い評価を示している。さらに、複数プログラム選択履修制度を有意義とする回答が62%を占め、授業以外の教育サービス（13項目）として、特に「学生室の教育設備」の充実や学生支援サービス（8項目中7項目）の満足度は高い評価となっている。

#### 4. 人間文化創成科学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 13 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 14 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 特筆すべき高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

大学院リーディングプログラム「『みがかずば』の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成」では、高度な研究力と実践力を備えた人材を育成する「グローバル理工学副専攻」（大学院修士・5年一貫の教育）を平成25年度に設置し、令和元年度に実施された事後評価においてS評価を受けている。このほか、女性の多様なライフサイクルを見据え、学内の保育施設を利用した育児奨学金制度を設けている。

#### 〔優れた点〕

- リーディングプログラム「『みがかずば』の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成」（実施期間：平成25～令和元年度）に基づき、「グローバル理工学副専攻」（大学院修士・5年一貫の教育）を設置し、高度な研究力と実践力を備えた人材の育成を行っている（教育内容の詳細については分析項目Ⅰ・選択Dを参照）。事業の最終年度となる令和元年度に実施した日本学術振興会による事後評価では、「計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られている」と評価され、最高評価となる「S評価」を受けている。
- 出産や就労等に対応するための長期履修制度や、学内の保育施設を利用した育児奨学金制度を設けるなど、人間文化創成科学研究科は、女性の多様なライフサイクルを見据えた大学院となっており、これまで大学院レベルの専門性を持つ多様な女性人材を養成する役割を大きく担ってきたと言える。

#### 〔特色ある点〕

- 奈良女子大学とお茶の水女子大学の共同専攻として設置した生活工学共同専攻では、学際的な分野及び工学分野における大学院教育の充実を図り、大学間連携を推進するため、学籍を置く大学から主指導教員を選択することに加え、もう一方の大学から副指導教員を選択させる制度としている。
- トランスジェンダー学生の受入れを決定したことを踏まえ、トランスジェンダー学生の対応についての講習会を実施するなど、その都度、教員のニーズに応じたFDを企画・実施している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

**〔判定〕 高い質にある**

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

ライフサイエンス専攻の遺伝カウンセリングコースでは、平成 28 年度から令和元年度の 4 年間で延べ 13 名の認定遺伝カウンセラーの資格取得者を輩出している。また、「グローバル女性リーダーの育成」をミッションに掲げた上での、ジェンダー視点に立った教育や、多様なロールモデルの提示といったポリシーは、卒業時の学生を対象にしたアンケートにおいて高く評価されている。

### 〔優れた点〕

- ライフサイエンス専攻の遺伝カウンセリングコースでは「認定遺伝カウンセラー」養成のためのカリキュラムを編成しており、平成 28～令和元年度の 4 年間で延べ 13 名の資格取得者を輩出している。

### 〔特色ある点〕

- 大学がミッションとして掲げる「グローバル女性リーダー」の育成については、84%が肯定評価（「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合）、女子大学の存在意義については、78%が肯定評価（「大きい」、「どちらかといえば大きい」の割合）としている。